

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500328		
法人名	医療法人社団 きのこ会		
事業所名	グループホーム あんきな家		
所在地	岡山県笠岡市新賀美之越3220番地		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 30 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・介護保険法の理念に基づき、家庭的な環境の中で入居者の皆様が、健康で明るく、安心した生活を営み、その有する能力に応じた生活を送れるよう、適切なサービスを提供する。</p> <p>・一人一人のニーズに合わせてその人らしさ、趣味であったり家族への思いなどを大切にしている。</p> <p>・近隣グループホーム、母体のエスポアール病院と協力し、チームケアとして地域の歯科との連携、管理栄養士、作業療法士のサポートを受け、より良い生活に努めている。</p> <p>・今の時代のニーズに合わせた施設となれるよう、社会環境を日頃より把握し、勉強会も取り組んでいっている。</p> <p>・施設で虐待防止委員会、感染委員会を設置し、自施設でのケースに迅速に対応できるように取り組んでいる。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500328-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500328-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 2 月 6 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小僧は怪訝な顔をして、「俺はそんなところを見たことはねえよ。だって、あれからまだ一度も来たのは知らねえもの」「本当か?」「ああ、本当に!」「そんなはずはねえがな」と若衆は小首を傾げたが、思い出したように盤台をゴシゴシ。・・・”小栗風葉「深川女房」の一小節の文章が、なぜか似合う普段のありのままの生活とがすり合わせて見える。寒さがちょっと和らいだ日差しが、リビングに柔らかく滑り込み、一部の暖かいところに立派なソファをどんと構え、庭では枯れた草木がわずかに風に揺らいでいる。何事もなかったように落ち着いて窓越しに庭を眺めている人生の先輩である利用者が、リビングを独り占めにしていた。その様子は、利用者、法人ともに、コロナ感染が起きなかった穏やかさを醸し出している。そんな静の中、職員と少しでも言える関係が漂っていた。身近なところに住んでいる家族のお孫さんが来られた時にその静粛が大きく破られ、覚えてたのグーチョキパーの歌が奏でられ、身振り手振りをしてくれるそんな家族とのつながりが動を導いている。職員の心は、いつもどうしたら良いかを話し合い、利用者の生活をみんなでなんとか回していこうとする気持ちと熱いサービスを常に繋げていた。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方一人一人とのコミュニケーションを大切にしていく。そうすることで一つのホームとしてつながっていく。	玄関の目に触れられる所に、理念と「あんきな家」の頭文字を取った標語を掲示している。新入職員には、法人の研修にて理念に触れる機会を設けている。明るく優しい心で、家中に輝きを与えられるように日々の介護に従事している。	理念を振り返る場を設けてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中でインフォーマルなサービスとの関わりは難しくなっているが、歯科往診や、訪問美容など可能な限りで地域とつながっている。	近隣の散歩をしている際に、出会った方と挨拶を交わしている。法人の保育園よりハロウィンにてお菓子を配ったり、秋祭り際には、こども神輿が利用者に元気を与えてくれた。ボランティアや大学生の実習生の受け入れは随時行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア活動の参加可能な体制を作り続けていくこと、学生の実習生受け入れなど努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より運営推進会議を再開し、徐々に活動の輪を広げていけるよう話し合っていく。	参加者は笠岡市職員、民生委員、法人内の他GH職員、隣接する別法人のGH職員が参加している。入居者状況、行事活動や研修報告を行った。民生委員の方から、ひとり歩きネットワークの紹介をして頂き、認知症への知識が深まった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	活動状況の書面の報告や、備品の情報、介護保険の調査等で連携している。	市町村との窓口は管理者。介護保険更新時や書類提出がある場合には、直接出向している。何かあれば電話やメールにて情報交換をしている。運営推進会議にて、長寿支援課の担当者が来られるので、顔を合わせて話し合いができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止している。スタッフ全員共通の理解で関わっていく。勉強会の実施、指針の周知などおこなっている。	日中は玄関の施錠はしておらず、1階と2階の行き来も自由としている。身体拘束・虐待防止研修は、法人全体とGH内で実施していて、外部の研修にも参加している。講師を招いての学習や法律について学びを深めた。法人内でも委員会を立ち上げ、今後活動していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	重要事項説明書にも詳しく記載し、しない、発見したらすぐ通報などスタッフが共有している。入浴時当利用し、身体状況の把握に努めている。委員会の設置により、未然に防ぐ取り組み行っていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用された方が入居していた実績もあるので、入居者のニーズに合わせて、対応していくことができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、書面をもって説明している。契約内容変更のさいは、随時お伝えしていく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時を利用して意見をお願いしている状態である。週に一度のスタッフ会議を通じて職員全員に浸透させていく。	面会は玄関先で対面で実施できていて、ほとんどの家族が会いに来られた。面会に来られない方は、何かあればその都度、電話連絡をしている。毎月、利用者の写真を掲載した「あんきだより」を家族に郵送している。実家の様子が気になる方へは、外出許可を取って、実家に帰ったら落ち着かれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ間ではケアだけでなく、日常の生活でも自由な意見が出せるよう関係づくりを心がけている。	週1回のカンファレンスにて、職員の意見を聴取している。ここ数年は異動もなく、職員同士も気心知れ、何でも言えるアットホームさが形成されていた。ケアに関する意見も多く上がり、利用者が草取りをしたり、外気に触れる機会を増やしたりした。職員からの提案で、ゴミ捨て用の押し車を購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者とは、電話でいつでも連絡がとれる状況があり、時には助言をいただいたり、話しやすい関係性である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会もあり、市内の病院での講演の参加している。感染対策研修にもオンラインなど含めて出席している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内でのグループホームの連絡会議を2か月に1回持つようにし、問題を持ち寄り、知恵を出し合い、質の向上を目指している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の現状を把握し、また、今までの生活してきたことを大切に、本人の安心できる環境作りにつなげていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族の要望を聞き、面会時なども随時伺っていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを実施していくなかで、今後の支援等を予測し、必要な支援をスタッフ間で話し合い、見極めしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と要介護者の関係でなく、共に生活するなかでお互いの関係性を育み、その中でも、利用者の方を敬いながら接していく気持ちを忘れないような関係性を続けていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族をつなげるために、オンラインを含めた面会や、手紙でのやりとりなど続けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の方の友人によるギター演奏会を皆で楽しむこともできた。一人一人の善意のつながりをこれからも大切にしていく。	面会は玄関先で対面で実施できていて、ほとんどの家族が会いに来られた。利用者の友人が来られて、ギター演奏会を開催したら喜んで頂けた。日の光が差し込む窓際で、毎日ソファに腰掛けて日光浴をして癒されている。草取りやゴミ捨てが日課となっている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人個人の状態を把握し、スタッフ間で話し合い、孤立することを防ぎ、居心地のよい環境づくりをいつも心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ行かれた方も、法人内での移動もあるので、会いにいけるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を把握するよう心掛けている。コミュニケーションのとりにくい方でも、普段の関わりから読み取るようにしている。	入居前に、連携シート「むすびの和」を活用したり、家族から聴取したりして情報を得ている。管理者は、「利用者とは正面から向き合い逃げないようにする」を心掛けている。日常生活の中で、些細なサインを見逃さないように配慮している。一人ひとりに合わせたタイミングで言葉掛けをするように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りだけでなく、本人の昔話から聞いたことや、これまでのサービス機関の情報等も大切にし、スタッフ間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を残し、スタッフ間で話し、確認しあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活暦や、趣味等を把握し、本人、家族の要望、ドクターの意見を取り入れ、現状に即したものにす。	3ヶ月毎にカンファレンスを実施していて、状態確認やアセスメントを行っている。何かあればその都度変更している。ケアプランは6ヶ月毎に更新している。長期目標が1年、短期目標を6ヶ月としている。モニタリングは3ヶ月で更新している。ケアプランの作成は、ケアマネジャーが中心となり、担当職員の意見も参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を残し、スタッフで情報の共有に役立てている。週に1回話し合いの機会を持ち、ケアの改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「個人」を大切に、その人に必要なサービス、また今後予想される状況を推測し、その人に合ったサービスをスタッフ全員で見つけ出し提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺施設や、敷地が大きな資源となっているので、個人の趣味とADLを考慮にいれ、豊かな暮らしが出来る様考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所内の病院に月1度往診し、先生の意見をいただいている。また、急変などでも当直医に連絡できる。専門外の治療は、専門医に受診お願いしている。	かかりつけ医は、全員が母体の協力医に転医しているが、元のかかりつけ医を受診している方もいる。今年の1月より名誉医院長の往診に変更され、一人ひとりに話をして頂け、利用者の安堵感に繋がっている。病院の看護師や作業療法士の来訪もあり、訪問歯科による口腔ケア・口腔衛生指導もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	あんきな家に看護師はいないので、小さな気づきも、事業所内の看護師と情報を密にするよう心がけている。また、健康診断等もおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者の方に、退院後のケアの状況報告したり、病院から、内服薬と食事の摂取方法など助言いただき、ケアに活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個人の重度化をスタッフ会議で話し合い、末期のあり方を家族と相談し、あんきな家で無理なことは正直に話し、代替となる施設を検討してもらう。	看取りは実施可能だが、ここ2年はなかった。前回の看取りの際にデスカンファレンスを開催して、今後に活かせるように取り組んでいる。亡くなった方が育てていたキュウイを娘が栽培を受け継ぎ、できたキュウイを施設に届けてくれ、思いが風化しないように工夫している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変を想定したマニュアル作成し、初期対応のイメージを作っておく。事業所内の病院の当直医、看護師に、協力要請する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に、避難訓練を年2回行い、地域の消防署と連携を取れる体制を整えている。また、事業所内の協力も得られる体制にある。	法人全体で年2回、昼夜想定で火災訓練を実施した。GH単体で行う際には、避難経路の確認ができた。連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、水や食料を3日分程度、事務所の倉庫と食器棚に保管している。期限間近の物は、利用者と一緒に食してフードロスをなくしている。法人施設でも備蓄は保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「個人」を尊重し、本人の意見や、主張を大切にしながら、声かけ、行動を起こすようにしている。	呼称の基本は苗字に「さん」付けだが、夫婦の方は下の名前に「さん」付けで呼んでいる。利用者の一人ひとりの思いを大切にしている。安心して生活できる場を作るように心掛けている。重要な書類は事務所の鍵付きロッカーにて保管している。	今でも十分にできていますが、利用者の尊厳をさらに守れるように工夫してみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情や行動から読み取り、その本人の意思を尊重していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて過ごしていただいている。気分や体調に合わせて、自室やホールを自由に行き来して過ごしてもらう。1階・2階も自由に行き来してもらう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の老人保健施設の美容院利用していただいている。服やスリッパなど本人に合うものを選ぶよう家族と協力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備をする人、盛り付けの上手な人、後片付けの得意な人とそれぞれに合ったことをやりながら楽しく過ごすようにしている。	食材を発注して、3食手作り。メニューは施設内で作成し、法人の管理栄養士にも確認して頂いている。週2～3回、夕食のみ調理担当の職員がおられる。行事食として、お節や手巻き寿司を堪能し、おやつ作りとして、お汁粉やどら焼きを作った。包丁さばきが上手な利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録し、スタッフ間で共有している。量も多少個人差をつけ、水分補給も2回を基準に必要なら随時補給してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室の洗面台を利用して、口腔ケアの援助をしている。義歯の消毒も確実にできるようサポートしている。口腔衛生指導に基づき援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自室に個々のトイレがあるので、本人の行きたいときに使用することができる。必要な方は排泄記録を残し、状況に応じてトイレ誘導している。	トイレは各居室についている。排泄記録は紙媒体で、日常記録に記入している。居室で過ごされている方は、1時間に1回見守り体制を敷いて、排泄確認をしている。布パンツで過ごされている方も5名程いる。排泄失敗時には、周りに気づかれないように言葉かけにも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の記録や、本人への聞き取りで排便チェックをしている。その方に応じた飲食の工夫、散歩等で便秘予防に努めている。必要な方は下剤にて対応する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後の時間を利用し、本人のペースで入ってもらっている。	週2～3回の提供で、自分で入浴される方も数名いる。入浴を拒否される方へは、職員やタイミングを変えて言葉掛けをしたり、会話や運動後に入浴を促すように工夫している。季節湯として柚子湯や入浴剤を使用することもある。浴槽は2ヶ所あるが、1階の浴槽をメインとして使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で休むだけでなく、リビングにもソファを設け、ゆったり出来るような環境作りを心がけている。夜の入眠時間もその方の生活習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み、その後の症状の変化に気をつけ、何かあれば医師に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を中心にその方が得意なことに取り組んでもらっている。時間があれば歌会をひらいている。その他に、塗り絵、ボール遊びなど、日々の状況に応じて良いものを提供していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩を支援している。今は本人の希望を伺い、可能な範囲で援助していく。	春には、近隣の公園で桜を見ながらお弁当を食べた。夏には、納涼祭でソーメンを召し上がり、花火を堪能した。秋には、団栗で遊び、イチヨウ並木を通った。冬には、近隣の神社へ初詣へ出掛けた。病院受診の際に、家族の方がドライブがてらに昔馴染みの道を通っている。施設内の庭や敷地内の散歩をして外気に触れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方は本人にお任せし、管理の難しい方はご家族と協力し、欲しいものがあるときはその都度提供していけるよう対応していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により支援する。かかってきた電話は本人につなぐことが可能であり、毎年、年賀状はご家族と一緒に書いたものを送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階と2階に共同の場所があり、それを包むように個室が配置され、ホールを使いやすく、皆で利用する。危険なものは目につかないように心がけている。	清潔感に溢れたこじんまりとした雰囲気のリビングでは、職員は利用者全員に目配りをして、手を握って寄り添い会話を楽しんでる姿を目の当たりにした。日の当たる窓辺のソファに腰掛けて、日向ぼっこが日課となっている。歌謡曲を聞いたり、新聞を読んだりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階と2階に共同空間があることにより、片方過しにくければもう片方といった使い分けをしていただくことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、飾り、時計、カレンダーなどをその方、家族の希望で配置、飾っている。中には飾りを嫌がり、片付ける方もいらっしゃるので本人の希望に合わせている。	広々とした居室には、ベッド、クローゼット、エアコン、トイレ、洗面台が備え付けられている。写真や孫からプレゼントされた果物や国旗の絵が大切に飾られていた。昔弾いていたペルーの楽器(ケーナ)を持ち込んでいる方もいる。仏壇を持ち込んで、位牌に手を合わせて家族を忍んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所は手すりを設けたり、杖代わりに家具を配置して移動の安全を確保している。2階も階段とエレベーターを選んで使用できる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				